

事務事業名	スポーツ教室運営事業				担当	教育委員会 スポーツ振興課 指導係		
政策名	1	「人づくり」～豊かなこころアップ！～				☒ 総重（総合計画重点事業）		☐ 総新（総合計画新規事業）
施策名	6	生涯スポーツ・レクリエーションの振興				☐ 戦拡（総合戦略拡充事業）		☐ 戦新（総合戦略新規事業）
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略				事業期間	☐ 単年度のみ		
法令根拠	スポーツ基本法					☒ 毎年度実施（開始年度 昭和52 年度～）		
予算科目	1.一般会計	10.教育費	5保健体育費	1保健体育総費		☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
予算科目								
事業概要	市民ひとり1スポーツの定着化を目指し、生涯スポーツの推進とスポーツ人口の底辺拡大を図るため、市民各層に対応できるよう、初心者を対象としたスポーツ教室を開講する。 <開講教室>教室終了後、継続的に行ってもらうため、既存の愛好会の紹介を行っている。 ・児童対象：体操、バドミントン、かけっこ、ドッジボール など ・親子対象：卓球、スポーツ、弓道 など ・成人対象：筋力トレーニング、ノルディックウォーキング、太極拳、ラテンダンス、ヨガ、少林寺 など ・全対象：フライングディスク、グランドゴルフ、ニュースポーツ など 謝金 R5:1,020千円 R6:1,020千円 増減なし							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）				④活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
6年度実績 開催種目（ 2 9 教室・ 2 1 種目） 教室追加 3 ・新規種目 2 実施種目の選定・対象者・内容・時期・回数を決定し、講師に依頼する。 参加者の募集。 講師に指導計画、実施内容の報告書の提出。 教室終了後、参加者にアンケート調査を実施。 7年度計画 開催予定数（ 2 7 教室・ 2 2 種目） 新規 3 教室 3 種目・廃止 5 教室 2 種目 その他前年度と同様				名称	単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
				ア 謝金		676	843	939	967	1,020
				イ 教室数		23	25	27	29	27
				ウ 種目数		17	19	19	21	22
				エ 応募者人数（定員）		670	715	730	740	605
				オ						
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 市民、児童及び市内勤務者				⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
				名称	単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
				ア 市民数		78,592	77,635	77,578	76,972	76,498
				イ 児童数		4,343	4,230	4,192	4,021	3,877
				ウ						
				エ						
				オ						
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 市民ひとり 1 スポーツの実現を目指すため。				⑥成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
				名称	単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
				ア 参加人数		473	404	543	575	485
				イ 申込者の割合（定員に対する申込数）		70.6	56.5	74.4	77.7	80.0
				ウ						
				エ						
				オ						
(2) 総事業費の推移		単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)			
投入量	事業費 財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0		
		県支出金	千円	0	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0	0		
		一般財源	千円	723	960	1,045	1,020	1,020		
	事業費計（A）		千円	723	960	1,045	1,020	1,020		

2. 1 次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) スポーツをする機会の提供により、スポーツの日常化が図られ、生涯スポーツの振興に結び付く。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 市民の健康、体力づくり活動に不可欠な生涯スポーツ振興のため妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	☒ 対象・意図を見直す必要はない ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある (評価理由) 市民・児童及び市内勤務者を対象にスポーツ教室を開講し、スポーツ人口を増やしている。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地はない ☐ 向上余地がある (評価理由) 市内小学校へチラシ配布、また市のホームページやもおかテレビ等、広報・メディア等を通し、スポーツ教室のPRに努め参加者の増加を図っている。 また、市民ニーズに対応した種目の検討を行っている。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統合や連携はできないか？	☐ 類似事業と統合・連携ができる(類似の事務事業名：) ☐ 類似事業と統合・連携できない(類似の事務事業名：) ☒ 類似事業はない (評価理由) スポーツ部門は、他に類似事業がない。
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある (評価理由) 事業費の大部分は、講師謝金であり削除余地はない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) ☐ 廃止 ☐ 見直し (☐ : 目的妥当性 ☐ : 有効性 ☐ : 効率性) ☐ 統合 ☒ 継続 生涯スポーツの推進とスポーツ人口の拡大を図り、市民ひとり1スポーツを目指しニーズに対応した教室を開催している。	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
(2) 課題、課題の克服の方向性 教室終了後も、市民がスポーツに継続して取り組む環境づくりを支援する。申込者数が少ない事業についてあり方を見直し、市民が多く集うイベント等へ出向いて体験コーナーを行うアウトリー型への事業等への転換等を検討していく。																						

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足(説明責任不充分) ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
					コスト																		
			削減	維持	増加																		
成果	向上																						
	維持		○																				
	低下																						
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																							
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☐ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項 参加者数の増加に努める。																						